

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地														
国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校		平成5年3月25日		古川 博文		〒260-0021 千葉県千葉市中央区新宿2-11-12 (電話) 043-242-0466														
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地														
学校法人中村学園		昭和41年8月15日		中村 洋子		〒260-0021 千葉県千葉市中央区新宿2-14-13 (電話) 043-242-0467														
分野	認定課程名		認定学科名			専門士		高度専門士												
商業実務	商業実務専門課程		エアライン科キャビンアテンダントコース			平成27年2月19日		-												
学科の目的		企業と連携して行う授業科目を取り入れ、業界全般の専門知識、技術力、ホスピタリティ・マインドを身に付ける教育課程とし、即戦力として活躍する意思と能力を持った人材を育成し、多様化し続ける業界に対応できる逞しい人材を輩出することを目的とする。																		
認定年月日		令和2年3月25日																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義		演習	実習	実験	実技												
2年	昼間	1810	520		1170	120	0	0												
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数		総教員数												
60人		8人		0人	22人の内数4人	95人の内数23人		117人の内数27人												
学期制度	■前期： 4月1日～9月30日 ■後期： 10月1日～3月31日				成績評価	■成績表： 有 ■成績評価の基準・方法 各学年、各学期毎に評価試験・出席率・平常点に基づいて行う。成績の評定は、A=優・B=良・C=可・D=不可・Q=再認定で行い、A～C・Q評価を「認定」、D評価を「不認定」とする。4段階評価が困難な場合には、R評価を「認定」、D評価を「不認定」とする。不認定となった科目で再評価されたものはQ評価とする。														
長期休み	■夏期： 8月 1日～8月31日 ■冬期： 12月26日～1月 5日 ■春期： 3月21日～4月10日				卒業・進級条件	1. 【卒業】各科で規定する卒業基準単位を取得する。 【進級】各学期における各科規定単位を全て取得する。 2. 所定の期日までに学費を納入する。														
学修支援等	■クラス担任制： 有 ■個別相談・指導等の対応 各期においてクラス担任による面談を実施。その他、随時必要に応じて個人面談及び保護者面談も行う。学生状況は全職員に学生システム及び会議内で共有され、各室連携し、対応する。				課外活動	■課外活動の種類 ・生徒会組織(SAM)によるイベント立案、実行 ・小学生職業体験会(キッズハッピープロジェクト)のサポートスタッフ ・スポーツ大会実行委員 ・学園祭実行委員 ■サークル活動： 有														
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和6年度卒業生) エアライン業界等 ■就職指導内容 専任の就職担当による徹底した個別指導を通じて、各学生の希望や特性に合った企業紹介から進路決定に至るまで一貫指導を行う。就職活動を成功に導くための各種プログラム及び教育課程を編成している。 ■卒業者数 3 人 ■就職希望者数 3 人 ■就職者数 3 人 ■就職率： 100.0 % ■卒業者に占める就職者の割合： 100.0 % ■その他 なし (令和 6 年度卒業者にに関する 令和7年5月1日 時点の情報)				主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和6年度卒業者にに関する令和7年5月1日時点の情報) <table><tr><td>資格・検定名</td><td>種別</td><td>受験者数</td><td>合格者数</td></tr><tr><td>アマデウスシステム 検定初級</td><td>③</td><td>3人</td><td>3人</td></tr><tr><td>ユニバーサルマ ナー検定</td><td>③</td><td>3人</td><td>2人</td></tr></table> ■自由記述欄 なし			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	アマデウスシステム 検定初級	③	3人	3人	ユニバーサルマ ナー検定	③	3人	2人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																	
アマデウスシステム 検定初級	③	3人	3人																	
ユニバーサルマ ナー検定	③	3人	2人																	
中途退学の現状	■中途退学者 0 名 ■中退率 0.0% % 令和6年4月1日時点において、在学者5名(令和6年4月1日入学者を含む) 令和7年3月31日時点において、在学者5名(令和7年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 学生面談において、学生状況の把握を行い早期解決に向けた取り組みを行う。保護者面談等を実施し、全教職員で学生システム及び会議内で共有し、各室連携して対応に当たる。なお、経済的理由の場合には、各学期において夜間部への転科を認めており、クラス不適合等の場合は、夜間部を含めた転科(コース)を認める場合がある。また、学生相談のためのスクールカウンセラーを配置し、学外においてカウンセリングの場を提供している。																			
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有 ・ホスピタリティ特待生制度：入学時ならびに2年進級時に能力・人格ともに優れており、他の模範となる学生を特待生として選出。授業料の一部を免除する制度。 ■専門実践教育訓練給付： 非給付対象																			
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価： 無																			
当該学科のホームページURL	https://www.ithb.ac.jp/course/airline/																			

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育の質保証と向上を図るため、関連する業界の企業や団体等から求められるニーズや意見を集約し、有益なものについては、次年度の教育課程編成に反映させる。また授業内容の改善、工夫を随時していくことを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

校長または副校長が招集し年2回以上開催する。各学科の当年及び次年以降の教育課程について、委員会において科目編成や授業工夫・改善に関する意見を集約し、改めてカリキュラム会議において教育課程(案)を作成、職員会議・統括会議を経て校長または副校長が最終決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年6月30日現在

名 前	所 属	任期	種別
市丸 健介	一般社団法人日本旅行業協会 関東支部千葉県地区委員会	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	①
今関 真治	千葉都市モノレール株式会社	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	③
遠藤 陽平	東武鉄道株式会社	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	③
酒井 大之	T-LIFEパートナーズ株式会社	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	③
折原 恭子	イオンモールキッズドリーム合同会社	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	③
石井 光彦	株式会社旅行綜研	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	③
鈴木 繁	株式会社ジャッツ 成田空港事務所	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	③
小林 寿恵	一般財団法人成田空港振興協会	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	③
松井 哲至	株式会社エコーパートナーズ	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	③
風間 昭彦	ホテルニューオータニ幕張	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	③
山下 裕乃	株式会社オータパブリケーションズ	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	③
佐々木 貴夫	公益社団法人日本ブライダル文化振興協会	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	②
大塚 達也	ホンダモビリティランド株式会社	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	③
室田 伸一	一般社団法人 地域未来企画	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	③
角野 真	株式会社C・B・H	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 （前期・後期各1回）

(開催日時(実績))

【令和6年度】

第1回：令和6年9月3日(火) 13:00-15:30

第2回：令和7年2月26日(水) 13:00-15:30

【令和7年度】

第1回：令和7年9月3日(水) 13:00-15:30 予定

第2回：令和8年2月26日(木) 13:00-15:30 予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

学生の実践的な問題解決能力とコミュニケーション力の向上を目的として授業内でクレーム対応等を学生自身で考えるCSコンテスト(新たに設定する卒業制作の授業内で実施)を開催し、企業様にもご参加いただく。また企業実習強化が課題となっているので各企業様の受け入れ協力をお願いする。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

観光業界の動向やニーズを捉え、企業と教育内容、指導方法等連携し、職業に必要な実務及び専門知識を育成するための演習及び実技等を行うことで業界で活躍する人材育成をすることを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

■演習・実技

教員(企業)は観光業界に必要とされる科目について実務に対する最新の知識を持ち、演習及び実技等における教育内容、指導方法、評価方法、課題・教材について学校と連携し、授業の運営にを行い、成績評価・単位認定を行う。更なる工夫等を行えるよう修了後も連携し、改善を行っていく。

■実習

受け入れ先企業と実習実施前に打合せを行い、実習内容の詳細を決定、協定書等の取り交わし、学修成果の指標等について定める。実習期間中についても、随時各企業と連絡を取り合い、巡回し、学生の実習状況を直接確認するとともに、企業担当者と情報交換を行う。実習修了時には、企業担当者による評価を踏まえ、担当教員が成績評価・単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
危険物取扱講座	危険物の分類や危険性、ラベルを理解し、旅客手荷物に含まれる危険物を理解する。航空機の搭載規則を理解する・危険物規則書の見方を理解する。危険物申告書の作成、マーキング・ラベリングの規則を理解し、航空安全に対する意識を醸成する。	株式会社JALカーゴサービス

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教職員は、授業・学生に対する指導力向上、及び業界動向を捉え専攻分野の専門教育を深化させ、実務に関する知識修得及び技能向上を図る。規則に則り、業務経験や能力に応じた適切な研修を計画的に受講する。また、業界に必要とされる各種検定取得等も推進する。受講後は、定められた報告書とともに学内においてフィードバックを行い、今後の学生指導・授業運営・教育課程編成に活用することを基本方針とする。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ANA Blue Base研修」
(連携企業等:全日本空輸株式会社)
期間:令和6年4月5日 対象:エアライン科教員
内容:実際の訓練施設でエアライン業界の知識を深め、現実的な内容を授業へ活かす。
連携内容:該当企業は航空業界のリーディングカンパニーであり、研修に教員が参加することで連携している。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「革新的思考～考え方、思考～」
(連携企業等:(株)ビーコンラーニングサービス)
期間:令和6年8月9日 対象:全教職員
内容:授業等で活用できる考え方を学び、教育活動へ活かす。
連携内容:当該企業は、各種研修を多く実施しており、教員が研修を受講することで連携している。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「航空会社研修」
(連携企業等:株式会社ANA総合研究所)
期間:令和7年10月2日 対象:エアライン科教員
内容:ANAの特徴、サービスの内容を学び、学生指導へ活かす。
連携内容:当該企業は、各種研修を多く実施しており、教員が研修を受講することで連携している。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「創造力に関する研修」
(連携企業等:株式会社MIKAN-DESIGN)
期間:令和7年8月(予定) 対象:全教職員
内容:授業等で活用できる創造力を学び、授業等へ活かす。
連携内容:当該企業は、デザイン等の企画を行っており、教員が研修を受講することで連携している。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に則り、学校が評価項目を設定し、自己評価を行う。自己評価結果は、地域や企業等委員で構成された学校関係者評価委員会において客観的な評価を受ける。全ての評価結果は専攻分野の教育活動及びその他学校運営の改善や工夫に活かしていく。また、自己評価、学校関係者評価ならびに改善方策等はホームページに公開し、広く社会へ公表することを基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標 -理念・目的・育成人材像、特色のある教育活動、将来構想
(2)学校運営	(2)学校運営 -運営方針、事業計画、運営組織、コンプライアンス、 情報公開、情報システム
(3)教育活動	(3)教育活動 -目標の設定、教育方法・評価等、成績評価・単位認定等、 免許・資格取得の指導体制、教員・組織
(4)学修成果	(4)学修成果 -就職率、免許・資格の取得率、卒業生・在校生の社会的評価 評価目標
(5)学生支援	(5)学生支援 -就職等進路、中途退学への対応、学生相談、学生生活、 保護者との連携、卒業生・社会人、高校との連携
(6)教育環境	(6)教育環境 -施設・設備等、学外実習・インターンシップ等、防災・安全管理
(7)学生の受け入れ募集	(7)学生の受け入れ募集 -学生募集活動、入学選考、学納金
(8)財務	(8)財務 -財務基盤、予算・収支計画、監査、財務情報の公開
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守 -法令基準等の遵守、個人情報保護、学校評価
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献 -社会貢献・地域貢献、ボランティア
(11)国際交流	(11)国際交流 -留学生の受け入れ、留学生指導

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

社会の変化に柔軟に対応するため、ICT教育の導入を積極的に進めている。一部のコースでは、2025年度よりタブレット端末を活用した授業を開始予定であり、ネットワークやクラウドシステムを活用した実践的な学びの場を提供することで、学生の学修意欲と満足度の向上を図る。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年6月30日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
原田 正隆	千葉市民活動支援センター	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	地域
小亀 さおり	元公務員	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	地域
今関 真治	千葉都市モノレール株式会社	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員
横山 隆	株式会社千葉京成ホテル	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員
小西 有	ANAスカイビルサービス株式会社	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業等委員
岩崎 正佳	株式会社両総観光	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ

 広報誌等の刊行物 ・ その他())
URL : <https://www.ithb.ac.jp/information/>
情報公開ページ 9学校評価

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に則り、社会全体への情報提供し、説明責任を遂行する。また、企業との連携に資するため、特色ある教育活動及び学校運営に関する正確かつ適切な情報を積極的に提供する。情報やデータについては、収集・整理・更新を組織的に行い、継続的に質の保証・向上に向けて情報提供へ取り組むことを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学園情報、学校基本情報、経営方針、危機管理への取組状況
(2)各学科等の教育	在籍数・卒業後の進路、就職先企業、入学者の受け入れ方針 学科・コースの教育、目指す資格・検定一覧、資格レポート 主要資格・検定合格率一覧、カリキュラム(シラバス)
(3)教職員	教職員(教職員数、組織図、教員の専門性に関する情報) 教職員研修
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリアプラン、就職支援、企業実習
(5)様々な教育活動・教育環境	クラブ・サークル、スクールイベント
(6)学生の生活支援	学生サポート
(7)学生納付金・修学支援	学納金、学費サポート
(8)学校の財務	財務状況
(9)学校評価	自己評価、学校関係者評価、教育課程編成委員会議事録 学校関係者評価委員会議事録
(10)国際連携の状況	留学生ホームページ、海外交流、留学制度
(11)その他	学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ

 広報誌等の刊行物 ・ その他())
URL : <https://www.ithb.ac.jp/information/>
情報公開ページ 9学校評価

授業科目等の概要

(商業実務専門課程エアライン科キャビンアテンダントコース) 令和6年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			キャリアデザインⅠ・Ⅱ	自己分析や、社会の中での自分の強みや他者理解を学び、就職活動だけではなく、学生生活や対人関係、将来の仕事などに必要な姿勢を養い、社会に必要とされる人材を育成する。	1通	52	2		○		○		○		
○			ビジネスコミュニケーションⅠ・Ⅱ	社会人として、必要なビジネスマナーを理解・実行できることを目標に、挨拶や言葉遣い、接遇を学ぶ。	1前 2後	52	2		○		○			○	
○			デジタルスキルⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	パソコン検定3級以上の入力速度アップを目標とし、ワード・エクセルを含めたパソコン操作の基本を、例題作成を通して習得する。	1通 2通	104	4		○		○			○	
○			Let's Speak EnglishⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	異なる国や文化の人々と積極的なコミュニケーションをとるために、シンプルなキーセンテンスを応用して使えるような会話・リスニング・アクティビティを練習する。	1通 2通	104	4		○		○		○	△	
○			TOEIC Advanced対策Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	英語によるコミュニケーション能力評価する世界の共通テストである。現在ほとんどの企業はTOEICスコア保持者を採用条件として設定している。	1通 2通	182	7	○			○			○	

授業科目等の概要

(商業実務専門課程エアライン科キャビンアテンダントコース) 令和6年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			CA講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	前期はチーム内の連携がスムーズにいくために必要となる業界用語、2レター、3レター、旅客の出入国の流れ、等を学ぶ。後期はより客室乗務員に特化した知識の習得をする。サービス要員として行う機内販売で取り扱うブランド商品について学び、各国通貨での支払いの計算方法を習得する。	1通2前	78	3	○			○		○		
○			CA実技Ⅰ・Ⅱ	客室乗務員として働くための接客技術を基礎から学び、機内モックアップを使用したロールプレイを中心にサービス業務と保安業務の流れと動作を習得する。	1通	52	2		○		○			○	
○			English CommunicationⅠ・Ⅱ	ネイティブ講師による会話・スピーキング・アクティビティを中心に観光業務や留学で使える様々な英語力を身につける。	1通	52	2		○		○			○	
○			美しい日本語話し方講座Ⅰ・Ⅱ	話し方の基礎を学び、表現する力を養い、話し方のマナー・正しい日本語を身に付けることで高品質な接客、必要な好印象を与える話し方のスキルを身につける。 また、航空会社採用試験に必要な伝わる話し方のコツを習得し体現する力を身に付ける	1通	52	2		○		○			○	
○			エアライン・サービス論	航空会社のサービスの基本である航空機の運航【オペレーション】に関わる業務内容を、顧客と接するサービスを提供する部門の仕事内容と併せて理解する。	1前	26	1		○		○			○	
○			ワールドデスティネーションズⅠ・Ⅱ・Ⅲ	世界地図を使用して地図の読み方や世界の主要な国・首都・都市の具体的な位置や気候等を把握する。また、各国の主な観光地、文化や日本の輸入品などについても学ぶ。	1通2前	78	3	○			○			○	
○			アマデウスⅠ・Ⅱ・Ⅲ	全世界の航空会社や旅行会社にとって必要不可欠なシステムであるアマデウスの国際線予約基本操作を習得し、アマデウスシステム検定試験Specialist資格取得を目指す。	1通2前	78	3		○		○		○		
○			エクササイズⅠ・Ⅱ・Ⅲ	スポーツの体験を通して、健康および体力の向上を図るとともに、運動習慣を体得し、生涯に渡り運動・スポーツの実践を目指す。また、コミュニケーション能力を養うことで、社会人として必要とされる他者と協働する力を鍛える。	1通2前	78	3		○		○			○	
○			身だしなみ講座	第一印象をアップさせるテクニックを学び、メイクを通して自分自身と向き合い自信をつける。また、礼儀・マナー・言葉遣い・時間など、学校のルールも身につける。	1前	26	1		○		○			○	
○			エアライン・ビジネス論	航空産業の歴史を学び、どのような変化を遂げ現在の航空業界に至ったのかを理解する。 また航空産業に関わる企業の戦略や商品、人材確保・育成について、日々のニュースから学ぶ。	1後	26	1		○		○			○	
○			エアライン受験対策	面接試験の目的や流れ・基本的な言葉遣いを学ぶ。模擬面接や質疑応答の反復練習とフィードバックを行い、表情や視線・立ち居振る舞い等の実践的なスキルを体得する。	1後	26	1		○		○			○	
○			ホスピタリティ	心理学の知見を応用し行動変容の重要性を学び、自己肯定感を高めるます。また様々なワークを通し、おもてなしの実例に触れながら共に考え、ITHの教育理念に基づいた「ホスピタリティ豊かな人材の育成」を目指します。	1後	26	1		○		○			○	
○			Airport Study	成田国際空港と羽田空港を訪問、見学し業務内容や現場を知る。企業から講義、説明、施設見学を受け、航空業界の現状を直に学ぶ。	1後	52	2		○			○	○		
○			TOEIC Advanced集中講座	TOEIC受験直前の特別補講授業として模試スタイルの授業で本番のテストに備える。図表や文脈を解釈する新方式の問題に慣れる。	1後	52	2	○			○			○	
○			海外語学留学	語学学校でGeneral Englishコースを受講する。(レベル別)海外生活を経験しながら英語コミュニケーションスキルを磨き、異文化を理解する。6月に受験する第1回目のTOEICから、9月受験の第2回目に向けてスコアアップを目指す	1後	78	3		○			○		○	
○			電話対応ベーシックⅠ・Ⅱ	発声・発音・定型的な言い回し・伝言メモの書き方等の電話対応の基礎を固め、実践ですぐに役立つ電話対応技術を学び、即戦力を目指す。	2通	52	2		○		○			○	
○			Airline EnglishⅠ・Ⅱ	航空業界で働く際に遭遇する場面での「使えるフレーズ」を覚えることで、英語での対応能力を養う。またシンプルなキーセンテンスを応用できるように反復練習し英会話能力を向上させる。	2通	52	2		○		○			○	

授業科目等の概要

(商業実務専門課程エアライン科キャビンアテンダントコース) 令和6年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			手話講座Ⅰ・Ⅱ	ユニバーサルサービスとして接客における手話を身に着ける。前期は5級の単語学習中心におこない、後期は4級単語学習を行う。聴覚障がいをお持ちのお客様に対して手話でのコミュニケーションをとれるようにする。	2通	52	2		○		○			○	
	○		中国語Ⅰ・Ⅱ	中国語圏内のお客様に対してテーマパークで初歩的な接客対応ができるように仕事で使えるフレーズの習得を目指す。	2通	52	2	○			○			○	
	○		韓国語Ⅰ・Ⅱ	韓国語圏内のお客様に対してテーマパークで初歩的な接客対応ができるように仕事で使えるフレーズの習得を目指す。	2通	52	2	○			○			○	
○			社会人準備講座	これから社会人として活躍するために、身につけておかなければならない最低限の常識やマナー、言葉遣いについて学ぶ。	2前	26	1	○			○		○		
○			ニューディスカッション	最新のニュースより議題を決め、ディスカッションをすることによりコミュニケーションスキルをUPする。	2前	26	1		○		○		○		
○			危険物取扱講座	危険物の分類や危険性、ラベルを理解し、旅客手荷物に含まれる危険物を理解する。航空機の搭載規則を理解する・危険物規則書の見方を理解する。危険物申告書の作成、マーキング・ラベリングの規則を理解し、航空安全に対する意識を醸成する。	2前	26	1	○			○			○	○
○			ワイン&カクテル入門	CAの「空飛ぶソムリエ」としての役割と仕事を理解し、基礎的な飲料の知識を習得する。	2前	26	1	○			○			○	
○			卒業制作Ⅰ・Ⅱ(GSコンテスト)	2年間で習得した技術・知識を振り返り、コンテスト形式で発表する。	2通	104	4		○		○		○		
○			企業実習/ボランティア	航空業界に関する業務を理解する。	2後	120	4			○		○		○	
合計				31科目	1810単位時間(69単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
1. 卒業基準単位の取得、2. 定められた期日までに学費を納入		1 学年の学期区分	2期
		1 学期の授業期間	13週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地													
国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校		平成5年3月25日		古川 博文		〒260-0021 千葉県千葉市中央区新宿2-11-12 令和3年4月1日 043-242-0466													
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地													
学校法人中村学園		昭和41年8月15日		中村 洋子		〒260-0021 千葉県千葉市中央区新宿2-14-13 (電話) 043-242-0467													
分野	認定課程名		認定学科名			専門士	高度専門士												
商業実務	商業実務専門課程		エアライン科エアポートコース			平成27年2月19日	-												
学科の目的	企業と連携して行う授業科目を取り入れ、業界全般の専門知識、技術力、ホスピタリティ・マインドを身に付ける教育課程とし、即戦力として活躍する意思と能力を持った人材を育成し、多様化し続ける業界に対応できる逞しい人材を輩出することを目的とする。																		
認定年月日	令和2年3月25日																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技												
2年	昼間	1810	494	1196	120	0	0												
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数													
60人		16人	0人	22人の内数4人	95人の内数23人	117人の内数27人													
学期制度	■前期： 4月1日～9月30日 ■後期： 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表： 有 ■成績評価の基準・方法 各学年、各学期毎に評価試験・出席率・平常点に基づいて行う。成績の評定は、A=優・B=良・C=可・D=不可・Q=再認定で行い、A～C・Q評価を「認定」、D評価を「不認定」とする。4段階評価が困難な場合には、R評価を「認定」、D評価を「不認定」とする。不認定となった科目で再評価されたものはQ評価とする。														
長期休み	■夏期： 8月 1日～8月31日 ■冬期： 12月26日～1月 5日 ■春期： 3月21日～4月10日			卒業・進級条件	1.【卒業】各科で規定する卒業基準単位を取得する。 【進級】各学期における各科規定単位を全て取得する。 2. 所定の期日までに学費を納入する。														
学修支援等	■クラス担任制： 有 ■個別相談・指導等の対応 各期においてクラス担任による面談を実施。その他、随時必要に応じて個人面談及び保護者面談も行う。学生状況は全職員に学生システム及び会議内で共有され、各室連携し、対応する。			課外活動	■課外活動の種類 ・生徒会組織(SAM)によるイベント立案、実行 ・小学生職業体験会(キッズハッピープロジェクト)のサポートスタッフ ・スポーツ大会実行委員 ・学園祭実行委員 ■サークル活動： 有														
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和6年度卒業生) エアライン業界 ■就職指導内容 専任の就職担当による徹底した個別指導を通じて、各学生の希望や特性に合った企業紹介から進路決定に至るまで一貫指導を行う。就職活動を成功に導くための各種プログラム及び教育課程を編成している。 ■卒業者数 9 人 ■就職希望者数 9 人 ■就職者数 9 人 ■就職率 : 100.0 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100.0 % ■その他 (令和 6 年度卒業者に関する 令和7年5月1日 時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和6年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報) <table><tr><td>資格・検定名</td><td>種別</td><td>受験者数</td><td>合格者数</td></tr><tr><td>アマデウスシステム 検定初級</td><td>③</td><td>9名</td><td>9名</td></tr><tr><td>ユニバーサルマ ナー検定</td><td>③</td><td>9名</td><td>9名</td></tr></table> ■自由記述欄 なし			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	アマデウスシステム 検定初級	③	9名	9名	ユニバーサルマ ナー検定	③	9名	9名
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																
アマデウスシステム 検定初級	③	9名	9名																
ユニバーサルマ ナー検定	③	9名	9名																
中途退学の現状	■中途退学者 0 名 ■中退率 0.0% % 令和6年4月1日時点において、在学者19名 (令和6年4月1日入学者を含む) 令和7年3月31日時点において、在学者19名 (令和7年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 学生面談において、学生状況の把握を行い早期解決に向けた取り組みを行う。保護者面談等を実施し、全教職員で学生システム及び会議内で共有し、各室連携して対応に当たる。なお、経済的理由の場合には、各学期において夜間部への転科を認めており、クラス不適合等の場合は、夜間部を含めた転科(コース)を認める場合がある。また、学生相談のためのスクールカウンセラーを配置し、学外においてカウンセリングの場を提供している。																		
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有 ・ホスピタリティ特待生制度： 入学時ならびに2年進級時に能力・人格ともに優れており、他の模範となる学生を特待生として選出。 授業料の一部を免除する制度。 ■専門実践教育訓練給付： 非給付対象																		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価： 無																		
当該学科のホームページURL	https://www.ithb.ac.jp/course/airline/																		

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係			
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針			
教育の質保証と向上を図るため、関連する業界の企業や団体等から求められるニーズや意見を集約し、有益なものについては、次年度の教育課程編成に反映させる。また授業内容の改善、工夫を随時していくことを基本方針とする。			
(2)教育課程編成委員会等の位置付け ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記			
校長または副校長が招集し年2回以上開催する。各学科の当年及び次年以降の教育課程について、委員会において科目編成や授業工夫・改善に関する意見を集約し、改めてカリキュラム会議において教育課程(案)を作成、職員会議・統括会議を経て校長または副校長が最終決定する。			
(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿			
令和7年6月30日現在			
名 前	所 属	任期	種別
市丸 健介	一般社団法人日本旅行業協会 関東支部千葉県地区委員会	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	①
今関 真治	千葉都市モノレール株式会社	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	③
遠藤 陽平	東武鉄道株式会社	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	③
酒井 大之	T-LIFEパートナーズ株式会社	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	③
折原 恭子	イオンモールキッズドリーム合同会社	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	③
石井 光彦	株式会社旅行綜研	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	③
鈴木 繁	株式会社ジャッツ 成田空港事務所	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	③
小林 寿恵	一般財団法人成田空港振興協会	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	③
松井 哲至	株式会社エコーパートナーズ	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	③
風間 昭彦	ホテルニューオータニ幕張	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	③
山下 裕乃	株式会社オータパブリケーションズ	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	③
佐々木 貴夫	公益社団法人日本ブライダル文化振興協会	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	②
大塚 達也	ホンダモビリティランド株式会社	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	③
室田 伸一	一般社団法人 地域未来企画	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	③
角野 真	株式会社C・B・H	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	③
※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。 ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。） ②学会や学術機関等の有識者 ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員			
(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期 (年間の開催数及び開催時期) 年2回 （前期・後期各1回） (開催日時(実績)) 【令和6年度】 第1回：令和6年9月3日(火) 13:00-15:30 第2回：令和7年2月26日(水) 13:00-15:30 【令和7年度】 第1回：令和7年9月3日(水) 13:00-15:30 予定 第2回：令和8年2月26日(木) 13:00-15:30 予定			
(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況			
学生の実践的な問題解決能力とコミュニケーション力の向上を目的として授業内でクレーム対応等を学生自身で考えるCSコンテスト(新たに設定する卒業制作の授業内で実施)を開催し、企業様にもご参加いただく。また企業実習強化が課題となっているので各企業様の受け入れ協力をお願いする。			
2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係			
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針			
観光業界の動向やニーズを捉え、企業と教育内容、指導方法等連携し、職業に必要な実務及び専門知識を育成するための演習及び実技等を行うことで業界で活躍する人材育成をすることを基本方針とする。			
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記			
■演習・実技 教員(企業)は観光業界に必要とされる科目について実務に対する最新の知識を持ち、演習及び実技等における教育内容、指導方法、評価方法、課題・教材について学校と連携し、授業の運営にを行い、成績評価・単位認定を行う。更なる工夫等を行えるよう修了後も連携し、改善を行っていく。			
■実習 受け入れ先企業と実習実施前に打合せを行い、実習内容の詳細を決定、協定書等の取り交わし、学修成果の指標等について定める。実習期間中についても、随時各企業と連絡を取り合い、巡回し、学生の実習状況を直接確認するとともに、企業担当者と情報交換を行う。実習修了時には、企業担当者による評価を踏まえ、担当教員が成績評価・単位認定を行う。			
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。			
科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等	
危険物取扱講座	危険物の分類や危険性、ラベルを理解し、旅客手荷物に含まれる危険物を理解する。航空機の搭載規則を理解する・危険物規則書の見方を理解する。危険物申告書の作成、マーキング・ラベリングの規則を理解し、航空安全に対する意識を醸成する。	株式会社JALカーゴサービス	

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教職員は、授業・学生に対する指導力向上、及び業界動向を捉え専攻分野の専門教育を深化させ、実務に関する知識修得及び技能向上を図る。規則に則り、業務経験や能力に応じた適切な研修を計画的に受講する。また、業界に必要とされる各種検定取得等も推進する。受講後は、定められた報告書とともに学内においてフィードバックを行い、今後の学生指導・授業運営・教育課程編成に活用することを基本方針とする。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ANA Blue Base研修」
(連携企業等:全日本空輸株式会社)
期間:令和6年4月5日 対象:エアライン科教員
内容:実際の訓練施設でエアライン業界の知識を深め、現実的な内容を授業へ活かす。
連携内容:該当企業は航空業界のリーディングカンパニーであり、研修に教員が参加することで連携している。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「革新的思考～考え方、思考～」
(連携企業等:(株)ビーコンラーニングサービス)
期間:令和6年8月9日 対象:全教職員
内容:授業等で活用できる考え方を学び、教育活動へ活かす。
連携内容:当該企業は、各種研修を多く実施しており、教員が研修を受講することで連携している。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「航空会社研修」
(連携企業等:株式会社ANA総合研究所)
期間:令和7年10月2日 対象:エアライン科教員
内容:ANAの特徴、サービスの内容を学び、学生指導へ活かす。
連携内容:当該企業は、各種研修を多く実施しており、教員が研修を受講することで連携している。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「創造力に関する研修」
(連携企業等:株式会社MIKAN-DESIGN)
期間:令和7年8月(予定) 対象:全教職員
内容:授業等で活用できる創造力を学び、授業等へ活かす。
連携内容:当該企業は、デザイン等の企画を行っており、教員が研修を受講することで連携している。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に則り、学校が評価項目を設定し、自己評価を行う。自己評価結果は、地域や企業等委員で構成された学校関係者評価委員会において客観的な評価を受ける。全ての評価結果は専攻分野の教育活動及びその他学校運営の改善や工夫に活かしていく。また、自己評価、学校関係者評価ならびに改善方策等はホームページに公開し、広く社会へ公表することを基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標 -理念・目的・育成人材像、特色のある教育活動、将来構想
(2)学校運営	(2)学校運営 -運営方針、事業計画、運営組織、コンプライアンス、 情報公開、情報システム
(3)教育活動	(3)教育活動 -目標の設定、教育方法・評価等、成績評価・単位認定等、 免許・資格取得の指導体制、教員・組織
(4)学修成果	(4)学修成果 -就職率、免許・資格の取得率、卒業生・在校生の社会的評価 評価目標
(5)学生支援	(5)学生支援 -就職等進路、中途退学への対応、学生相談、学生生活、 保護者との連携、卒業生・社会人、高校との連携
(6)教育環境	(6)教育環境 -施設・設備等、学外実習・インターンシップ等、防災・安全管理
(7)学生の受け入れ募集	(7)学生の受け入れ募集 -学生募集活動、入学選考、学納金
(8)財務	(8)財務 -財務基盤、予算・収支計画、監査、財務情報の公開
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守 -法令基準等の遵守、個人情報保護、学校評価
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献 -社会貢献・地域貢献、ボランティア
(11)国際交流	(11)国際交流 -留学生の受け入れ、留学生指導

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

社会の変化に柔軟に対応するため、ICT教育の導入を積極的に進めている。一部のコースでは、2025年度よりタブレット端末を活用した授業を開始予定であり、ネットワークやクラウドシステムを活用した実践的な学びの場を提供することで、学生の学修意欲と満足度の向上を図る。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年6月30日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
原田 正隆	千葉市民活動支援センター	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	地域
小亀 さおり	元公務員	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	地域
今関 真治	千葉都市モノレール株式会社	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員
横山 隆	株式会社千葉京成ホテル	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員
小西 有	ANAスカイビルサービス株式会社	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業等委員
岩崎 正佳	株式会社両総観光	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ

 広報誌等の刊行物 ・ その他())
URL : <https://www.ithb.ac.jp/information/>
情報公開ページ 9学校評価

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に則り、社会全体への情報提供し、説明責任を遂行する。また、企業との連携に資するため、特色ある教育活動及び学校運営に関する正確かつ適切な情報を積極的に提供する。情報やデータについては、収集・整理・更新を組織的に行い、継続的に質の保証・向上に向けて情報提供へ取り組むことを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学園情報、学校基本情報、経営方針、危機管理への取組状況
(2)各学科等の教育	在籍数・卒業後の進路、就職先企業、入学者の受け入れ方針 学科・コースの教育、目指す資格・検定一覧、資格レポート 主要資格・検定合格率一覧、カリキュラム(シラバス)
(3)教職員	教職員(教職員数、組織図、教員の専門性に関する情報) 教職員研修
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリアプラン、就職支援、企業実習
(5)様々な教育活動・教育環境	クラブ・サークル、スクールイベント
(6)学生の生活支援	学生サポート
(7)学生納付金・修学支援	学納金、学費サポート
(8)学校の財務	財務状況
(9)学校評価	自己評価、学校関係者評価、教育課程編成委員会議事録 学校関係者評価委員会議事録
(10)国際連携の状況	留学生ホームページ、海外交流、留学制度
(11)その他	学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ

 広報誌等の刊行物 ・ その他())
URL : <https://www.ithb.ac.jp/information/>
情報公開ページ 9学校評価

授業科目等の概要

(商業実務専門課程エアライン科エアポートコース) 令和6年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			キャリアデザインⅠ・Ⅱ	自己分析や、社会の中での自分の強みや他者理解を学び、就職活動だけではなく、学生生活や対人関係、将来の仕事などに必要な姿勢を養い、社会に必要とされる人材を育成する。	1通	52	2		○		○		○		
○			ビジネスコミュニケーションⅠ・Ⅱ	社会人として、必要なビジネスマナーを理解・実行できることを目標に、挨拶や言葉遣い、接遇を学ぶ。	1前 2後	52	2		○		○			○	
○			デジタルスキルⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	パソコン検定3級以上の入力速度アップを目標とし、ワード・エクセルを含めたパソコン操作の基本を、例題作成を通して習得する。	1通 2通	104	4		○		○			○	
○			Let's Speak EnglishⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	異なる国や文化の人々と積極的なコミュニケーションをとるために、シンプルなキーセンテンスを応用して使えるような会話・リスニング・アクティビティを練習する。	1通 2通	104	4		○		○		○	△	
○			TOEIC対策Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	航空業界で要求されるスコアへの早期到達を目標とし頻出文法の復習や頻出語彙習得等の演習を繰り返し行う。	1通 2通	182	7	○			○			○	
○			English CommunicationⅠ・Ⅱ	ネイティブ講師による会話・スピーキング・アクティビティを中心に観光業務や留学で使える様々な英語力を身につける。	1通	52	2		○		○			○	
○			美しい日本語話し方講座Ⅰ・Ⅱ	・話し方の基礎を学び、表現する力を養い、話し方のマナー・正しい日本語を身に付けることで高品質な接遇、必要な好印象を与える話し方のスキルを身につける。 また、航空会社採用試験に必要な伝わる話し方のコツを習得し体現する力を身につける	1通	52	2		○		○			○	
○			エアライン・サービス論	航空会社のサービスの基本である航空機の運航【オペレーション】に関わる業務内容を、顧客と接するサービスを提供する部門の仕事内容と併せて理解する。	1前	26	1		○		○			○	
○			ワールドデスティネーションズⅠ・Ⅱ・Ⅲ	世界地図を使用して地図の読み方や世界の主要な国・首都・都市の具体的な位置や気候等を把握する。また、各国の主な観光地、文化や日本の輸入品などについても学ぶ。	1通 2前	78	3	○			○			○	
○			アマデウスⅠ・Ⅱ・Ⅲ	全世界の航空会社や旅行会社にとって必要不可欠なシステムであるアマデウスの国際線予約基本操作を習得し、アマデウスシステム検定試験Specialist資格取得を目指す。	1通 2前	78	3		○		○		○		
○			エクササイズⅠ・Ⅱ・Ⅲ	スポーツの体験を通して、健康および体力の向上を図るとともに、運動習慣を体得し、生涯に渡り運動・スポーツの実践を目指す。また、コミュニケーション能力を養うことで、社会人として必要とされる他者と協働する力を鍛える。	1通 2前	78	3		○		○			○	
○			身だしなみ講座	第一印象をアップさせるテクニックを学び、メイクを通して自分自身と向き合い自信をつける。また、礼儀・マナー・言葉遣い・時間など、学校のルールも身につける。	1前	26	1		○		○			○	
○			カーゴハンドリング入門	航空機で運ばれる貨物には実際にどのようなものがあり、どのような流れで世界中に貨物が運ばれているのか、航空貨物に関する仕事について詳しく学んでいきます。	1前	26	1	○			○			○	
○			エアポートハンドリング実務Ⅰ・Ⅱ	グランドハンドリング業務を統括する企業様より、直接授業を行っていただき、グランドハンドリングについての知識を深め、業界に求められるスキルなどを学び、将来の夢を掴むための一歩とします。	1通	52	2		○		○			○	
○			エアライン・ビジネス論	航空産業の歴史を学び、どのような変化を遂げ現在の航空業界に至ったのかを理解する。 また航空産業に関わる企業の戦略や商品、人材確保・育成について、日々のニュースから学ぶ。	1後	26	1		○		○			○	
○			エアライン受験対策	面接試験の目的や流れ・基本的な言葉遣いを学ぶ。模擬面接や質疑応答の反復練習とフィードバックを行い、表情や視線・立ち居振る舞い等の実践的なスキルを体得する。	1後	26	1		○		○			○	
○			ホスピタリティ	心理学の知見を応用し行動変容の重要性を学び、自己肯定感を高めるます。また様々なワークを通し、おもてなしの実例に触れながら共に考え、ITHの教育理念に基づいた「ホスピタリティ豊かな人材の育成」を目指します。	1後	26	1		○		○			○	
○			カーゴハンドリング実務	航空貨物に関する実際の業務内容について学び、物流の重要性や面白さ、航空輸送の意義や仕組みを幅広く学んでいきます。	1後	26	1	○			○			○	

授業科目等の概要

(商業実務専門課程エアライン科エアポートコース) 令和6年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			カウンター実技	カウンター設備を使用したロールプレイを中心に、チェックイン業務と搭乗ゲート業務の流れと動作を習得します。後半はキャビンアテンダントコースとの合同授業となり、11月の中村学園祭で発表するシミュレーションフライトに向けて、繰り返し練習を行います。	1後	26	1		○			○	○		
○			Airport Study	成田国際空港と羽田空港を訪問、見学し業務内容や現場を知る。企業から講義、説明、施設見学を受け、航空業界の現状を直に学ぶ。	1後	52	2		○			○	○		
○			TOEIC集中講座	リスニング・リーディング両パートに対応する実力強化を目標とし、時間配分の重要性を確認しながら本番形式の模擬試験を実施し、確実なスコアアップを目指す。	1後	26	1	○			○			○	
○			海外語学留学	空港でのチェックイン、国際線における客室乗務員の業務など、座学で習得した知識を実際に体験するとともに海外生活を通して英語コミュニケーションスキルを磨き、異文化を理解する。	1後	78	3		○			○		○	
○			Airline English I・II	航空業界で働く際に遭遇する場面での「使えるフレーズ」を覚えることで、英語での対応能力を養う。またシンプルなキーセンテンスを応用できるように反復練習し英会話能力を向上させる。	2通	52	2		○		○			○	
○			手話講座 I・II	ユニバーサルサービスとして接客における手話を身に着ける。前期は5級の単語学習中心におこない、後期は4級単語学習を行う。聴覚障がいをお持ちのお客様に対して手話でのコミュニケーションをとれるようにする。	2通	52	2		○		○			○	
	○		中国語 I・II	ピンインの発音法を習得し、頻出語彙や表現方法を身につける。また、空港でよくつかうフレーズを習得し、より実践てきな会話を学ぶ。	2通	52	2	○			○			○	
	○		韓国語 I・II	「聞く・話す・読む・書く」を習得し、日常生活でよく使われる単語やフレーズを練習する。Ⅲ・Ⅳでは、より高度な複文の発話などを習得する。	2通	52	2	○			○			○	
○			社会人準備講座	これから社会人として活躍するために、身につけておかなければならない最低限の常識やマナー、言葉遣いについて学ぶ。	2前	26	1	○			○		○		

授業科目等の概要

(商業実務専門課程エアライン科エアポートコース) 令和6年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ニューディスカッション	最新のニュースより議題を決め、ディスカッションをすることによりコミュニケーションスキルをUPする。	2前	26	1		○		○			○	
○			危険物取扱講座	危険物の分類や危険性、危険物申告書の作成方法、マーキングやラベリング規則等の知識を身につける。また、危険物に関する知識を通して航空安全に対する意識を醸成する。	2前	26	1	○			○			○	○

授業科目等の概要

(商業実務専門課程エアライン科エアポートコース) 令和6年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			電話応対ベーシックⅠ・Ⅱ	発声・発音・定型的な言い回し・伝言メモの書き方等の電話応対の基礎を固め、実践ですぐに役立つ電話応対技術を学び、即戦力を目指す。	2通	52	2		○		○			○	
○			空港旅客サービス実務	空港における様々な業務の知識をさらに広げ、目の前のお客様にどう対応するのか、具体的に実際の現場を想定し、自ら考え行動に移せる力を身に付けます。	2前	26	1	○			○		○		
○			貿易実務	「航空貨物代理店（フォワーダー）」に関する知識を習得し、航空会社やその他関連企業・省庁とどのように連携しているのか深く理解する。	2前	26	1	○			○		○		
○			卒業制作Ⅰ・Ⅱ	2年間で習得した技術・知識を振り返り、コンテスト形式で発表する。	2通	104	4		○		○		○		
○			企業実習/ボランティア	航空業界に関する業務を理解する。	2後	120	4			○		○			
合計				34科目		1810単位時間(69単位)									

卒業要件及び履修方法								授業期間等	
1. 卒業基準単位の取得、2. 定められた期日までに学費を納入								1 学年の学期区分	2期
								1 学期の授業期間	13週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。